

「さんべボランティアセミナー」

1 趣 旨

- ・ボランティア活動を始めようとする青年に、ボランティアについての学びの場を提供することで、社会の様々な場面で主体的に活動しようとする姿勢やボランティア精神を育む。
- ・先輩ボランティアやボランティアセミナーに参加した仲間とのつながりをつくることで、今後のボランティア活動への意欲を高める。

2 事業の概要

- (1) 期 日 平成 30 年 5 月 25 日 (金) ～ 5 月 27 日 (日) < 2 泊 3 日 >
(2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
(3) 対 象 ボランティア活動に興味のある青年 (高校生, 大学生, 社会人)
(4) 参加者 大学生 43 名 ※募集 40 名
(5) 講 師 まなび工房 堀江 清二 氏
くにびき自然学校 佐藤 しのぶ 氏

(6) 日程・研修内容

5/25 (金)	20:30		21:00		22:00		23:00	
		受付 開講式	講義 「青少年教育施設の 現状と運営」		入浴	就寝		
5/26 (土)	6:30	9:00	12:00	14:00	17:10	19:00	21:00	23:00
	起床 つどい 掃除 朝食	講義・演習 「救急救命法」	昼食	プログラム体験① 「バウムクーヘン 作り」	つどい 夕食 入浴	プログラム体験② 「キャンドルの つどい」	情 報 交換会	就寝
5/27 (日)	6:30	9:00	12:00	13:00	15:00	16:00		
	起床 つどい 掃除 朝食 退所点検	講義・演習「ボラン ティア活動の意義」「青 少年教育」	昼食	講義・演習 「青少年教育施設におけ るボランティア活動」	閉講式	解散		

3 事業の特色

①プログラムデザインと企画のポイント

本事業は、当施設におけるボランティア養成の入門編として位置付けている。今年度は国立青少年教育振興機構の法人ボランティア養成共通カリキュラムとの対応を図り、今後当施設でボランティア活動を希望する者に対して、法人ボランティア登録を行う機会としている。

②運営のポイント

これからボランティア活動を始めていこうとしている参加者が、気づきを出し合い、効果的に学びを深めていくことができるように、グループ単位での活動を基本とした。また参加者同士や先輩ボラとの交流を深めるため、グループリーダーとして各班に先輩ボラを配置することで潤滑にコミュニケーションをとれるようにした。

③広報のポイント

島根大学、島根県立大学新入生対象の説明会で直接広報を行ったことで、島根県内の大学から多くの参加者を募ることができた。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	93	7	0	0
プログラム	88	12	0	0
運営	93	7	0	0
講義・演習の内容	81	19	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者の声

- ・コミュニケーションの取り方や積極的にチームと一緒に活動することの大切さを改めて知ることができました。
- ・楽しい3日間を過ごしながらも、しっかりと知識が身についたから良かったです。

5 成果と課題

《成果》

- ・今年度から交流の家で救命救急講習を受講できるようになったことで、移動に時間がかからず、ゆとりをもった日程となり、参加者からも好評であった。
- ・昨年度実施した同事業では、活動ごとに班の構成を変えたことで参加者同士の人間関係が築きにくかったとの反省から、今回は班の構成を途中で変えず、最後まで同じ班で活動をした。その結果、参加者から「ボラセミ参加者同士、先輩ボラとのつながりを作ることができた。」との感想や、ボランティア活動について先輩ボラに積極的に話を聞いている参加者の姿が見られるなど、人間関係を築くことにつながった。
- ・参加者から、「来年は、グループリーダーとして参加したい。」「他の事業にも参加し、自分のスキルを高めていきたい。」等の声が聞かれるなど、これからのボランティア活動への意欲を高めることができた。

《課題》

- ・今年度は2泊3日の自然体験活動指導者（NEALリーダー）講習会においても、法人ボランティア登録を可能としている。しかし、「当事業に参加できなかったが、法人ボランティア登録をしたい」という声を聞く。引き続き、当事業以外でも法人ボランティア登録ができる機会が設定できないか検討していく必要がある。



(担当：企画指導専門職 辻田 渉)